

六甲カトリック教会 教会報

2023

1

No. 613



+クリスマスと新年おめでとうございます

主任司祭 英 隆一朗



年の瀬が近づいて来ましたが、いかがお過ごしでしょうか。今年にはコロナ禍が続き、さらにウクライナの戦争があり、全体的に厳しい年でした。イエス誕生の恵みを心に納めて、また新たな気持ちで歩いていきましょう。

引き続いて、UAPs（イエズス会全体の使徒職の方向性）について説明します。1つの柱は、「希望に満ちた未来の創造において若い人とともに歩むこと」です。イエズス会は伝統的に若者の教育に力を入れてきました。たしかに、よき指導者に出会い、キリスト教的価値観を身につけて、仲間とともに歩む体験は、その人の一生を決める原動力となるでしょう。六甲教会においても、若い人たちの養成は重要な使命だと思います。ただ最近では少子化や世俗化の影響からか、教会に若者が集まらなくなってきました。だからこそ、青年司牧に力を入れたいと思います。

秋から教会のオープンスペースを始めました。今のところ、1階のカフェの利用者は少ないです。それに比べ、2階の図書室で自習する若者（中高生・大学生）が出てきました。近隣の住民や近くの学校の生徒です。まじめな若者に活用してもらうのはとてもうれしいです。

そこから青年会を立ち上げることができました。第1・3土曜日の夜に集いを行います。18歳から35歳までの青年対象（国籍・洗礼の有無など何も問いません）なので、まわりに青年がいれば誘ってみてください。三日月会のメンバーにとりなしの祈りをお願いしていますが、早くもその実りが現れて、神に感謝です。

若者ととともに歩む次世代に向けた教会づくりは、実のところかなり緊急の課題です。この秋から教会の行事を再開してきましたが、イベントの担い手の高齢化が進み、以前のような規模で開催するのが難しくなってきました。担い手が高齢者が中心のため、年ごとに活動量に衰えが見られ、核となるメンバーの数が少しずつ減っています。イベントの意義ややり方の見直しが必要となりました。通常の活動にも弊害が現れています。毎週金曜日に地区ごとに清掃を担当してもらっていますが、地区によっては十分な人数が集まらず、今までの体制を維持できなくなりつつあります。

信徒の生活スタイルの多様化など、さまざまな要因があるのでしょうか。そのような変化を受けとめながら、次世代につなげていく教会活動のあり方を模索する時に来ています。

あらためて皆さんの祈りと協力が必要となりました。新しい年が未来に向けて、着実に歩みを進める望の年となりますように。

2022年度第4回小教区評議会議事録（要約）

日時 2022年12月11日（日）13:00～16:00

場所 第1、2会議室

出席者 英主任司祭、中村神父、宗行議長、三垣・堤副議長、大上書記、蛭田（財務部、三日月会）、中西（典礼部）、井川直（地区会）、井川伸（社会活動部）、藤井（婦人会）、林（壮年会）、吉村（教会学校）、本下（施設管理部）、詫（広報部）各コーディネータ

1. 英主任司祭から

- ① 日曜日ミサは当分7時半、9時、11時とする。公式行事は11時ミサ、こども関連は9時ミサと振り分ける。
- ② イグナチオ喫茶は第1日曜日に続ける。12月25日（日）は臨時に開きたい。
- ③ 教会活動の担い手が少ないこと、高齢化など解決すべき課題が多い。
- ④ 掃除当番制の存続危機的状況を解決したい。
- ⑤ オープンスペースは教会のイベントとリンクさせて利用参加を増やしたい。
- ⑥ 教会施設の老朽化の修復
- ⑦ 5月21日（日）11時ミサで堅信式、酒井司教司式
- ⑧ 2023年度は「六甲教会の祈り」、UAPs（イエズス会使徒職全体の方向性）以外に「十年計画」を策定していきたい。

2. 報告事項

- ① 秋の遠足（10月22日）参加20人、中村神父、ニティン神学生同行。草津教会でミサ、草津の信徒の皆様のご厚意にこたえたい。
- ② チャリティーバザー
開催時間短縮、雨天でも久方の開催で近隣、他教会からの訪問もあった。
- ③ 七五三祝福式（11月20日） 5人出席。
- ④ 地区役員会報告 地区役員会議事録（後掲）参照
 - ・大掃除 12月3日実施 参加30人ほど 聖堂扉、側溝の落ち葉清掃など。
 - ・新年度の役員決定は2月25日（土）を最終締め切りとする。
 - ・新年度の行事予定表、地区連絡網の配布は3月18、19日および3月25、26日とする。
 - ・納涼の夕べに替る「マリア様の集い」、「イグナチオの集い」などが考えられるが、8月に教会外にも呼び掛けるネーミングで実施する。
- ⑤ 宣教・養成部講演会 参加37人 他の行事と重なったのは反省点。
- ⑥ 施設管理部
 - ・ベルタワー補修 十字架と避雷設備、タワー外壁も補修して一応完成。
 - 鐘の駆動モーターの老朽化、メンテと交換を検討。信徒会館玄関タイルの補修も行う。
- ⑦ その他
 - ・落ち葉、落花の清掃に人手が足りない。掃除当番参加者の減少問題を改善すること。
 - ・カトリック時報からクリスマスイベントの紹介記事を要請されているので、「クリスマス音楽の集い」を取り上げ送稿する。（広報部）
 - ・クリスマスミサ 24日の「聖書と典礼」は整理券と引き換え 大聖堂の収容人数を守り、小聖堂、イグナチオホールも開放し、ゆとりをもった態勢とする。

3. 協議事項

① 各部予算案についての報告と協議

増額部門 典礼部：侍者服新調、オルガン備品、新式文冊子購入

広報部：SNS体制の強化費、リーフレット類の新版発行計画

青年会：復活立ち上げ 第1第3土曜日に活動

婦人会：遠足維持経費、イグナチオ喫茶経費の増額が見込まれる

施設管理部：高圧電流設備の更新、聖堂音響改良工事など

評議会：堅信式独自開催による経費増

なお、イグナチオホールのピアノ調律など関連費は今後典礼部の管轄とする。

② バザーの収益金の処理について

バザーの「収益金」は教会の収入ではないことを確認。税務当局の姿勢もあるので、金額について教会報、ホームページなどの文言には注意が必要。ただし信徒には説明責任がある。

③ 新年会 地区役員会議事録（後掲）参照

茶話会形式、場所を広くとる、招待者への案内状作成、発送

④ 今年度行事の変更

12月31日のカウントダウンは中止する。

1月22日予定の避難訓練は中止の方向。

3月12日（日）の小教区評議会は3月5日（日）に変更

重点課題：教会清掃について

①曜日、時間帯の再検討

②外注委託

③信徒の関心度、地区会メンバーとしての自覚涵養のための活性化

などを中心に意見を交換。早急に議長団と地区会で話し合いの会を持つ。

第5回小教区評議会 2023年2月5日（日）13時より

以上

12月3日地区役員会議事録（要約）

1. バザーの反省

① 3年ぶりの開催でコロナ対策を考慮し自粛の内容であった。②雨天にも関わらず近隣、他教会の参加があった。③休憩所確保のため駐車場の利用を制限したが雨天で休憩所のテントが使えなかった。次回は休憩所を屋内に設置し、駐車場を確保する方向で検討。④総合案内板を設置すべきであった。⑤バザー記録ファイルを残し保管、今後の参考にする。

2. 新年会開催について

①1月8日（日）11時ミサ後、イグナチオホールで茶話会形式②2020年1月以降の受洗者、転入者、新成人の紹介を行う。担当：灘北1、北・三田
評議会で継続協議 ※

3. イグナチオ喫茶 スケジュールと担当

2/5 東灘北1 3/5 東灘北2・芦屋 4/2 灘北1、北・三田
準備開始 9:30～終了12:30過ぎ

4. 年度内のスケジュール

教会行事予定表・連絡網配布

封筒入れ開始3/4(土) 配布日：3/18(土) 3/19(日) 3/25(土) 3/26(日)

5. 納涼の夕べ

代わりに「マリア様のつどい」などを検討、評議会で継続協議 ※

6. 掃除当番参加者減少についての解決策

①扱いやすい用具を揃える、②教会報で訴え、曜日、時間帯など多方面から検討を。

※ 評議会への継続協議事項については小教区評議会議事録（要約）参照

3年ぶりに新年会開催

1月8日（日曜日）11時ミサ後、新年会を開催いたします。
茶話会形式（ソフトドリンク、ケーキ、クッキー等）です。
新成人の方、2020年1月以降に受洗された方、転入された方をご紹介します。皆
さまのご参加をお待ちしております。当日、午前中にイグナチオホール台所までケ
ーキ、クッキー等の寄贈をお願いいたします。 地区会

チャリティーバザー 収益金配分についてのご報告

振込先	献金額
社会活動神戸センター	10万円
釜ヶ崎 こどもの里	10万円
大阪シナピス難民移動移住支援	15万円
ウクライナ支援 JRS	10万円
船員司牧	5万円

11月13日に行われたチャリティーバザ
ーの収益金は全部で500,063円でした。

そのうち50万円を左記のそれぞれの支
援団体に送金致しました。

当初、東チモールへ文具を送って支援するつ
もりでございましたが、コロナ感染拡大防止のため現在日本からの船便が欠航しているため、今
回は見送ることにしました。ご了承ください。

（社会活動部）

社会活動部 2022年年末及び2023年1月の予定

12月29日（木）10時～越年越冬炊き出し 神戸市役所裏 東遊園地 メニュー カレー

1月1日（日）10時～越年越冬炊き出し 神戸市役所裏 東遊園地 メニュー お雑煮

1月14日（土）10時～炊き出し 中央教会内 活動センター中庭台所 メニュー カレー

1月16日（月）9時半～ともしび会（児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り）教会台所

ベルタワー十字架復元



長年の風雨にさらされて突然傾いた、鐘楼の十字架が、約1か月余の
工事を経て復元されました。12月5日（月）工事足場の囲いが取り払
われ姿を現した十字架は、冬晴れの太陽を反射して
金色に輝きまばゆいほどでした。表面は銅板なので
この「金ピカ」はやがて緑青がふき、落ち着いた渋
みのある十字架となるということです。タワー全体
の壁も洗浄と補修と再塗装が施され、白亜の姿を見
せています。遠くから眺めてもよく分かる、教会の
シンボルの鐘楼と十字架。時刻を告げる鐘の音と共
に、また六甲の街の風物のひとつになることによ



う。詳しい工事の経過や構造については施設管理部の本下さんからいづれ
紹介していただく予定です。 写真は復元した十字架（左）と傾いていた時の十字架（右）

野宿をしている方々のための毛布や防寒具の寄贈のご協力に対して、社会活動神戸センターからのお礼状が届きました。

六甲教会のみなさま

クリスマス寒波が今年もやって来ました。

急に寒さが深まり、野宿する方々や生活困窮する方々への緊急対応として毛布や防寒着等のご提供をお願いいたしましたところ、たくさんのご提供をいただきました。皆さまの迅速なご協力に感謝申し上げます。

野宿している方々へは要望の都度カイロと共に毛布や寝袋を提供していますが、一方夜回りや炊き出しを通して生活相談へとつながり、居宅生活を始める方々の入居当初は寝具がないため、役所から提供されるまでの間を毛布や敷毛布を一人3枚で対応しています。

皆さまからのご提供で今はホッと一安心できた次第です。有難うございました。

なお、12/28（水）～2023年1/4（水）の期間、東遊園地にて「越年・越冬」活動が行われます。今年もカトリックの担当日は12/29（木）カレーライスと1/1（日）お雑煮です。

皆さまのご参加をお待ちしています。

カトリック社会活動神戸センター

教会大掃除 12月3日（土）（晴天のうちに無事終了しました。）

教会大掃除は、毎年11月バザー開催後で落葉の溜まる12月初旬に行なっています。毎週の大掃除ではなかなか手の届かない場所の清掃に力を入れています。

御堂入口のガラス戸の棧、教会屋上の枯葉掃除、教会北側の近隣のマンションに隣接する通路の枯葉、駐車場の排水溝に溜まった枯葉と泥、花壇の排水溝の枯葉と泥などです。

今年は、バザーが雨天でしたので、大掃除は雨が降らないようにとお祈りしていたのがよかったのか晴天のうちに終了しました。南側道路の掃除をしている時には、教会前の家の方が私達に話し掛けてこれ近隣の方とのコミュニケーションがはかれました。

途中参加の方も含めて30名弱の参加者で9時から約1時間半で終了しました。

終了後、イグナチオホールでお茶とお菓子で一息つきました。

参加者が、減少しています。皆様のご協力よろしくお願ひいたします。また、大掃除にご協力いただいた皆さまありがとうございます。

教会掃除の人手が足りません！

教会掃除は、各地区の班と日曜班で約2カ月に1回の順番で行っています。各地区の班は金曜日の9時から、日曜班は11時のミサ後に実施しています。

参加者が4名程度の地区が増えています。参加者の負担が増加し教会掃除の存続が危ぶまれる状況になっています。皆さんが使用するトイレは誰がきれいにしているのでしょうか？皆さまのご協力を切にお願いいたします。

また、参加しやすい曜日・日時、少人数でも扱いが簡単な掃除用具の提案をお願いいたします。（提案は教会事務まで）
地区会

侍者任命式



12月11日（日）の9時のミサでは新しく侍者に任命された5人のこどもたちが英神父さまから任命書を渡され、「しっかりとつとめを果たして下さい」と激励と祝福をいただきました。5人は首に木の十字架をかけて並んで記念撮影。信徒のみなさんのあたたかい拍手を受けていました。今回任命されたのは小河慶泰（おごう けいた）さん、林俊太朗（はやし しゅんたろう）さん、三澤晴（みさわ はる）さん、緒勝理心（おかつ りこ）さん、清水由貴（しみず ゆき）さんです。

林尚志神父さま（イエズス会 下関労働センター）講演会

宣教・養成部主催の講演会が12月3日（土）午後2時から開かれました。会場の主聖堂に集まった会衆を前に、林神父様は御年88歳とは思えないお元気さで、大きな身振り手振りで歯切れの良いお話をされました。タイトルは「コロナ禍をくぐり抜けた私たち、この後は…」というものでしたが、あらかじめ配られたレジメに構わず、自由奔放。典礼聖歌5番の「あなたのいきをおくってください」を全員で唱和して始まりました。



内容は、あちらこちらに飛び、ひとつにまとめることはむずかしいのですが、母上に教えてもらったという「朝まだき、わが心、主をあこがれて目覚む」という言葉を紹介され、「あこがれ」を大切に、待降節はまさしくあこがれの主を待ち望むことである。とか、コロナで人々はお互いにアウェーになった。しかしアウェーを乗り越えて、人々は強くなる。Social distance が叫ばれたが、むしろ Spiritual closeness (精神の近づき) が奨励されるべきであるとか、神父の甥で夭折したアキラ君が、言葉がわからなくても初めて海を見た途端「タッタッタ、ザアッ」と口走ったのはアキラの感動の発露、出会いのよろこびであったはずだ



というエピソードなどが印象的でした。さらに「若者の発言のないところには死臭がする、年寄りの発言のないところには諦めの砂漠が広がる、女性の反乱のないところには命が枯れる」「反乱は発言だ」「信仰は芯向」（口を空けて天を仰ぐのではなく、まことに「芯」になるものをまっすぐに見つめよ）などとラジカルな熱弁をふるわれました。最後は「アヴェマリアの祈り」で終わり、1時間25分の講演は終わり、イグナチオホールでの茶話会となりました。

典礼聖歌5番 あなたのいきを

答唱 あなたのいきをおくってください すべてがあらたになるように

詩編1 神よあなたのちからが せかいにくまなくてりはえて
天には光が満ちあふれ地には水が流れうるおす

詩編2 あなたのいずみをあふれさせ 小川は山をはせくだる
野山のけものはよみがえり 鳥もほとりに巣をつくる

詩編3 けものたちにはあおくさを ひとには生きるためにむぎを
ぶどう酒と油とパンを あなたはたもうひびのかてを

以下 略

今月の聖人 フランス革命とイエズス会

1789年に蜂起、輝かしい「人権宣言」を掲げたフランス革命は、イエズス会に厳しい弾圧を加えた、ということはご存じでしょうか。ルイ16世やマリー・アントワネットの処刑をはじめ、多数の学者や政治家が革命政府によって粛清されました。共和制政府により「聖職者民事基本法」なるものが制定され、教会も転換を迫られます。教皇からの分離、独立、司教や司祭が人民によって選挙で選ばれる、すなわち国家の公務員たることを強制され、拒否すると容赦ない拷問や処罰が待っていました。イエズス会日本管区発行（2010年）の資料によると、イエズス会の司祭23名を含む多数の殉教者を出したと記録されています。1月19日が記念日です。この日はあわせて宗教改革時代の殉教者も含め191名が列福されています。革命のどさくさに紛れ、列福されることもない多数の信徒もいたことでしょう。近代に至るまでキリスト者は時代の節目節目に迫害を受けてきたと言えます。



（詫 洋一 記）

施設管理部・園芸係より



最近、少し雰囲気の違いができたことにお気づきでしょうか。小聖堂入口前の“多肉植物ガーデン”（写真左上）です。他の花壇には色とりどりのお花を植えていますが、こちらには緑色の多肉植物を石と共に配置しています。ロックガーデンのイメージです。多肉植物は独特な形と質感が魅力で、お世話にあまり手間がかかりません。皆さまもご自宅で育てられてはいかがでしょうか。この“多肉植物ガーデン”は新しく園芸係に入ったメンバーが先輩方にご指導頂きながら、一から工夫して作りました。魅力的な花壇を作る喜びや難しさを感じつつ、先輩方と共に園芸の仕事に励んでいます。他の花壇も苗を植え替え、新春を迎える準備を整えました。ぜひご覧ください。（写真右下はベルタワーの花壇）



社会活動部ボランティアグループ紹介（2）東条湖の家

兵庫県加東市の東条湖のほとりにある「東条湖の家」は、1992年に伊藤輝男さんご一家がすべての私財を費やして設立されました。カトリック信者である伊藤さんご夫妻は、社会から取り残された身寄りのない知的障害をもつ方々と、一つの家族として共に生きる家を造りたいとの強い思いで始められました。

現在は、松平優子さんがその志を引き継いで代表者となられて、ピアノの上手な女性、記憶力抜群の女性、テノール歌手のような美声の持ち主の男性、似顔絵が得意な男性の4人の方々スタッフがの介助を受けながら、一つの大きなテーブルで食事を一緒にし、団欒、お散歩、また買い物の外出と自由な時間を過ごし、夜は夕べの祈りを共にするという生活をおられます。

このように人間らしい生活を過ごすためには、どうしても規則づくりの団体生活を旨とする公的支援は馴染めないところがあって、公的な支援を受けずNPO特定非営利活動法人エヌピーオー・ノアとして運営されています。そして、この家を支えているのは、森司教はじめ栄光学園のご友人方やカトリック教会の支援者たちなどです。私も30年前に宝塚黙想の家の故Fr ウォードを通して伊藤ご夫妻を知りその生き方に感動して今に至っております。



久しぶりに、先日六甲教会の友人たちと4人で東条湖の家を訪ねました。そこには帰天された入居者3人の懐かしい写真が飾られ、支える側も現在の入居者もともに年を重ねながらの明るい温かな笑顔に元気づけられる思いでした。

今年東条湖30年誌の冒頭に詩編133-1「見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。」という言葉が書かれていました。現代社会に欠如して「弱い立場の人を思いやる心ある人」が増えればもっと住みよい社会になるのになあと思いました。

藤原公子

ニティンさんの日記から

神学生ニティンさんは日本語検定試験に挑戦しています。ニティンさんのフリーエッセイお読みください。3回にわたって連載します。題して「ニティンさんの日記から」。

① しょうゆ味の祈り

幸いなことに、日本の生活には慣れてきています。日本へ来てもう2年です。来る前から和食はおいしいと思っていました。本当においしいです。毎日和食を食べられるなら日本語の勉強の生活も楽しいと思っていました。日本語の勉強が難しくなったからか、和食に慣れてきたからかわからないけど、今和食はおいしいといってもときどき変な味だとも思います。



しかしなんでも頑張って食べています。それでももっとおいしく食べるようにするため、醤油をかけてみました。たまにかけたこともあるが、できるだけ本物を食べようと思ってかけないように我慢していました。醤油をかけなくてもおいしいけど掛けたらインドの料理を食べている気持になります。それで醤油は私のインドの料理と和食へのリンクと思います。

日本へ来てから食事だけじゃなくて生活全部変わってきました。例えば、祈り方も変わってきました。日本へ来る前は瞑想が大好きでした。大体毎日やっていました。日本へきて座禅もやってみました。自分が深く考えることが面白いと思うから座禅が好きになるかもしれません。でも、最近また瞑想とか座禅などやりたくなくなってきました。そんな時思い出したのはロザリオの祈りです。子供ころ家族でロザリオを祈っていた時は嫌だったが、今ロザリオを祈るとき家族といっしょに祈っているという気持ちが強いです。それでロザリオは祈りの醤油になってきました。

最近、世界のいろいろな問題、例えばウクライナとロシアの戦況とかを見たらもっとロザリオを祈ろうという気持ちが強くなりました。家族を守りたい気持ちと世界の平和のために働きたい気持ちがあるけど、今の状態は祈るばかりです。だから皆の平和のための祈りと呼ばれる「ロザリオの祈りの醤油」を毎日の生活にかけています。それは私の祈りの醤油のことですがあなたの祈りの醤油はなんですか。(ニティン)

私の好きな聖書の言葉 鈴木 肇



「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」マタイ 18:20

イエス様が弟子たちに仲間や家族、兄弟の絆について言われた中にこのみ言葉があり、わたしたちが普段気づかずに過ごしている暮らしの中に偉大な神の愛が身近に実在することを教わります。で

はどうすれば神の愛を感じる事が出来るのでしょうか。

英神父様は祈りの中でイメージするようにとおっしゃっています。

過去を振り返ってうれしかったこと、その時神がどれほど私たちを愛してくださったかを思い起こす、などを勧めて下さっています。

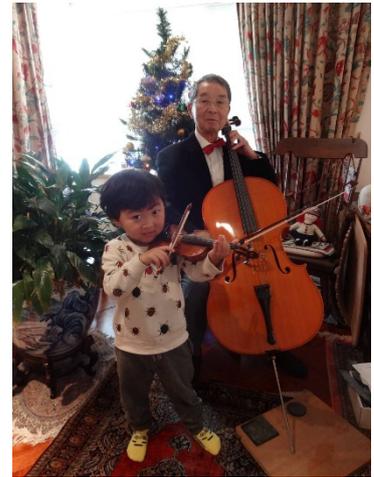
新しい年を迎えて私たちの共同体にも神の愛が豊かに注がれますようにお祈りいたします。

趣味は音楽です

船井孝祐

天国の門で聖パウロが門番をしており、その門を入ろうとした人に対し「ちょっとオッチャン待ってや！ お前はどのようにして天国に入ろうとしてんねん(なぜか関西弁?)」とストップをかけた。そのオッチャンは、「ワシは賄賂をもらうたこともないし、ひとのものをくすねたこともないし、悪いこと何んにもしてへん」と無然として応えた。聖パウロは「俺はアンタのしなかつたことを聞く耳ないねん。このあほたれ。アンタが何をしてきたかを聞いているんや！」と応えたという逸話があります。

今まで「趣味はなんですか」とよく尋ねられたが、その都度「音楽」と答えてきた。その遍歴を今振り返ってみると、3歳～7歳には、バイオリンを習い、ものにならず、中学に入るとブラスバンドでクラリネットを吹き、3年に洗礼を受けてからは灘教会でメルオウ神父のもと聖歌を歌っていました。その後東京に住所が移ってからは田園調布教会の聖歌隊長を5年間務めパレストリーナからストラビンスキーまでいろんなミサ曲を歌いました。その後勤めの関係でニューヨークに移り、セントセシリア合唱団に入団し、バッハのクリスマスオラトリオを300人団員の中唯一の日本人としてカーネギーホールで歌いました。その後ロンドンに移り、近くの教会のクワイアに入りテノールをはりました。その間イタリアのロレットでのカトリック教会クワイアの世界大会に参加したことも楽しい思い出です。その後、東京の純ドメ生活(完全に日本での生活に純-domestic)に戻り、60歳からチェロの思索的、メタフィジカルな楽器にあこがれ、ドボルザークのチェロ協奏曲を何とか弾けるようにと習い始めました。しかし時期すでに遅し、孫のバイオリンの進度にたちうち出来ず逡巡徘徊しております。精々サンサーンスの「白鳥」、カザルスの「鳥の歌」あたりでストップ アンド ゴウ 状態。ドボルザークの実現は残された時間を考えると、とても無理。天国までチェロを担いで行かざるを得ない状況です。聖パウロが許してくれるかどうか？



しかし、歌の方は、今更乍ら「基礎」が大事と思い、この一月からボイストレーナーに通い始めることになりました。

教会のご近所訪問 パイ専門店「エブリパイ」-every pie-



六甲登山口の五差路の一角に「焼きたてのパイ専門店・エブリパイ」があります。建物に貼りついたような小さなお店ですが、バラエティに富んだ各種のパイが並んでいます。アップルパイ、ミートパイはもとより、チョコレート、マロン、チーズ…、オリジナルのキャラメルナッツパイとかグラタンパイ、季節の素材を盛り込んだフルーツパイなど、まさにエブリパイです。2021年4月にオープンしました。オーナーの甲谷 鈴(こうたに りん)さん-写真-の手作りです。店が小さいのでお客様がひとりはいらただけで精一杯、作る数も限られますので、予約も受け付けています。営業日は火、水、金、土、営業時間は

11:00～18:00。予約は営業日当日の朝9時から受け付けています。寒い冬の午後、熱いコーヒーでも淹れて、お好みのパイを味わうひとときを楽しみませんか。

灘区篠原本町 1-2-5 電話 078-801-7667

クリスマス音楽の集い



例年の「クリスマス音楽の集い」は、聖歌隊や教会の音楽愛好家たちが歌を歌ったり、楽器を演奏したり、楽しいひとときを過ごしてきました。しかしコロナで一変、みんなで歌を歌うことも出来ず我慢の2年間。ようやく少し落ち着いてきて、ことしは典礼部音楽チームのメンバーが中心になって「クリスマスの音楽」を聴

かせてくれました。聖堂は満員、待ちかねたファンが楽しみに来聴して下さったようです。

勢ぞろいした出演者のみなさん

12月18日(日)、主聖堂でクリスマス音楽の集いが催されました。コロナ禍のため、3年ぶりのクリスマス音楽の集いでしたが、感染予防に留意しながら開催することができました。

第一部は、声楽アンサンブル Caeruleum Mare(チェルレウム・マーレ)のステージで、グレゴリオ聖歌から始まり、クリスマスにまつわる歌をアカペラやオルガン伴奏のアンサンブルで演奏いたしました。

第二部は、声楽、バイオリン、オルガンのソロ、連弾のステージで、今回は夙川教会の高橋真理さんをお迎えし、美しいバイオリン演奏を聴かせていただきました。演奏会の最後は中村神父様にお祈りいただき、祈りのうちに会を終えることができました。

開催にあたり、英神父様、中村神父様、ニティン神学生には大変お世話になり、ありがとうございました。とくにニティンさんは、この演奏会のために温かく素敵な絵をたくさん描いて下さり、チラシや演奏中にモニターに映し出された絵は演奏に華を添えました。

たくさんのお客様にご来場いただき、クリスマスを迎える喜びを皆様と分かち合うことができましたことを、心から感謝申し上げます。(ソプラノ 西川 葉)



教会学校クリスマス会

教会学校リーダー 辻原 華

今年の教会学校のクリスマス会は、「お互いを思いやり一緒に喜びを分かち合う」をテーマに行いました。

初めに「のぼさんのクリスマスツリー」の朗読劇を行い、クリスマスに関する〇×クイズやなぞなぞなど色々なゲームをしました。それぞれ答えを言ったりしながら楽しんでいる様子が見られました。後半はクリスマスプレゼントの交換でサンタクロースが登場し、みんなで宝探しを行いました。

クリスマスプレゼントは10日の教会学校で製作をしたものを交換してもらいました。1~3年生は松ぼっくりツリー、4~6年生はスタンドグラスをそれぞれ誰かのことを思いながら作ってもらったものを交換しました。

子どもたちにとってクリスマスはプレゼントをもらったり美味しいケーキを食べたりする楽しい日かもしれないけれど、世界では苦しんでいる子どもたちも多くいること、その子どもたちを直接手助けすることはできないけれどその子どもたちのことを心に留めてほしいというサンタさんからの言葉で今年のクリスマス会を締めくくりました。



六甲春秋 クリスマスの想い

主イエスの誕生が近づいた。はて、日本はいつからキリスト教の国になったのかと首を傾げることもある。三宮の商店街をブラつくところどこもかしこも華やかに飾り付けられ新しい意匠が施されている。人の流れも激しく、浮き立つような雰囲気あたりにあふれている。クリスマスを煽り立てながら、売った買ったという商売のさなかであり、クリスマスは商戦の目玉でもある。店側にとっては、儲けるための方便に過ぎないのではと疑いたくなる。しかし「恐れるな。すべての民に与えられる大きな喜びを告げ知らせる。今日、救い主・メシアが生まれた」。それならば、神の子イエスが同じ人間となって、激動する歴史の只中に生まれた、という神の救いの業をほめ称える心が、あるいはそれにあやかりたい心が、無意識のままでも人々の心にも在るのではないか。それが証拠に、相手（子供たち、恋人、父母、妻）を喜ばせるために、プレゼント・贈り物を買う人々が大勢いるようだ。むしろ買い求める当人の顔も心も、それとなく輝いているのではないか。

初代の教会では、イエスの誕生が決して祝われなかったと聞く。なぜなら、神々やローマ皇帝や支配者の誕生日が盛大に、ドンチャン騒ぎの内に祝われたからであり、それはリオのカーニバルのバカ騒ぎを思えば十分に理解できる。だから今日でも、東のビザンチン教会では一月六日の公現・エピファニアが盛大に祝われている。しかしサンタクロースはイエス誕生とは別個の

ものであり、聖ニコラウスという聖人が貧しい姉妹を暖かく世話したという故事と結ばれている。サンタさんはトナカイや橇に乗ってくる者ではなく、むしろ私たち自身であれば素晴らしい。しかしクリスマスは家庭の祝いとして、親しい家族が喜びを共にして、贈り物を交換して互いのキズナを深め合うことは実にふさわしいのではないか。

「神の慈しみと愛が現れ、私たちを憐みの心によって救って下さった。喜べ、歌え、あなたの王、聖なる方、救い主が来られた。それゆえキリストの光が私たちの日々の生活を輝かせますように」。

日本ではすぐ年の瀬やお正月が引き継ぐために、主イエスの誕生の祝祭も一日限りで終わってしまう。もっとゆっくり心を込めて祝いたいものだ。どうすれば良いのだろう。神の御言葉が肉となって宿られたからには、まず私たちの身体を大切に扱い、身体の営みをもっと意識して、食べ、飲み、疲れ、休み、寝るなどしてイエスとの接点を深めようではないか。正真正銘の人となったイエスに倣い、人々の喜びを増し加える働きに努めよう。あなたの訪れを待っている人がいないか。あなたの手紙や電話を待っている人は、あなたと仲直りしたい人は、あなたの祈りに期待にしている人は。主イエスはすべての人々のために生まれ、地の果てまでも神の救いを見たから。

中村健三 合掌



10回に渡って連載した、中村神父さまの「イグナチオ・ロヨラの息吹」は先月号で終わり、タイトルをふたたび「六甲春秋」として自由に書いていただきます。(広報部)

2023年1月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
神の母聖マリア ミサ 7:30 9:00 11:00 世界平和の日				事務室始業	初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 ◎灘南・神戸西	クリスマス 片付け
8	9	10	11	12	13	14
主の公現 新成人祝福式と 新年会 クリスマス片付 け	主の洗礼 教会受付休 み（成人の 日）				◎灘西・中央	社会活動部 炊き出し 教会学校 始業式・も ちつき
15	16	17	18	19	20	21
年間第2主日	三日月会 （新年会）	1.17 震災 追悼祈念 ミサ			◎東灘北1	典礼部会 10:00
22	23	24	25	26	27	28
年間第3主日（神 の言葉の主日）	定期清掃					
29	30	31				
年間第4主日 世界こども助け 合いの日						

◎は掃除当番地区です。

編集後記

- あわただしい年末年始、なんとか発行をクリスマスに間に合わせようと頑張りました。原稿をお寄せ下さった方々ご協力ありがとうございました。
- コロナは収まっていないのに、街はすっかり元に戻ったような…、教会は課題が山積、ウィズコロナでもひとつひとつ前を向いて解決していきましょう
- ニティンさんのエッセー、むずかしいと言われる日本語を駆使して味のある文章になっていますね。このほど日本語能力検定試験を受け1月に結果がわかります。応援していま～す。
- ウクライナに平和がまだ戻りません。狭い地球で人々はどのようにして殺し合うのでしょうか。とにかく戦争をやめるように、教皇様の祈りを切に望みます。

<p>次回2月号の発行は1月28日(土)です。原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAXやメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。 広報部</p> <p>Eメール renraku@rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 英隆一朗 編集 広報部</p>
--	--